

(略) 富丘の地と高徳寺とは切っても切れない関係にあります。

高徳寺は、川沿いの地にあり、「12号のお寺さん」として親しまれていましたが、たび重なる水害によって、特に大正11年の本堂流失を機として、ご門徒の方々の決断により、同年秋に高台の地、富丘に移転しました。

その後、昭和5年には、当時としては破格の高棟を誇る本堂が建設され、周囲には公民館、神社が併設され、当地区の中心街を形成しておりました。

私の幼い時の回想のひとつに境内に建設されていた聖徳太子碑の祭典が、毎年8月1日に実施され、その盛大であったことは今も忘れられません。出店が何軒も構え、奉納相撲は各地区青年団の対抗戦で競われ、地区代表の力士は1ヶ月も前から練習を重ね、地区のスターとして土俵狭しと戦っておりました。特に個人戦になると、花相撲となり、酔った勢いで、どこで正面したのか超破格の賞金を出す富豪がいて(後ほどこっそり奥さんの焼きが入ったそうです)、それを目指して男たちがぶつかり合い、中には素人が結ばまわしのせいか、股間がたるみ、大切な男の1物がポロリ顔を出し、うら若き乙女の歓声がこだまする、清々しくもなごやかな光景は、富丘区全盛時代のひとこまでした。力士が戦い終え、私たちが愛用している五右衛門風呂に入って身を清め、本堂で打ち上げの宴が催されます。しかし、五右衛門風呂には釜の底に何センチもの砂の層が沈殿して、翌日砂をかき出すのに大変でした。夜は公民館で映画が上映されたり、酔っぱらい同士があちこちで怒鳴り合う声、おねえちゃんを茶化す奇声、子どもたちが撃ち合うピストルの音などがこだまし、私の母が丹精込めて作ったスイカが畑から1個もなくなっていたり、その一日一日は、不夜城のように夜を徹してエネルギーを放射し続けていたのです。先日も(平成9年10年月)縁あって、「東京常呂会」(東京周辺に住んでいる常呂出身者の会)に招待され行ってきましたが、ある方が「あんだの寺でやっていた聖徳太子の祭りはすごかったなあ。あんな小さい地区にそれだけの人が集まる祭りはそうない。楽しかった。俺らの青春だ。忘れられんわ。もう1回あの祭りに行きたい。」と感無量で申されておりました。現代、常呂のあちこちで「祭りイベント」はたくさん行われていますが、もうひとつ存在感に乏しいのです。「時代が違うからなあ」と片付けてしまっには早計で、実はここに現代人の病理があると思うのですが、それは「いのち」の完全燃焼の場であったということでしょうか。そのたった1日に1年分の「いのち」を燃焼し尽くし、そうしてそれが1年生きるエネルギーとして再生充電される。

そういう意味では、昔の人は「祭り」という意味を十分に身体で理解していたのでしょう。身体で感受したものは、何十年の時を経ても「俺らの青春だ。忘れられんわ。もう1回あの祭りに行きたい。」という東京常呂会の方の「いのち」に未だに連続無窮に響き続けるものなのでしょう。聖徳太子祭は富丘区の誇り高き祭りとして、それぞれの人々の「いのち」に今も深く、激しく、やさしく、懐かしい鉾脈のように息づいています。

私の50年の人生の中にも、お祭りといえば「お太子さん」が底辺にあって、どうしてもその観念を突き破るほどの「お祭り」を体験したことはありません。

今、あの地に行ってもお寺はなく、会館、神社もありません。当時を忍ぶ跡形もない空間に建つと、よりの象徴的に、あの夜を徹してエキサイトしていた人の群れが、寄せては返

す波動のように脳裏を駆け巡り、胸が熱くなります。
それぞれの人々の心にそれぞれの「お太子さん」が脈打ち、富丘区の人々の鉱脈として、感動の源泉となっているのでしょう。

昭和7年から昭和46年に至る37年間、富丘の皆さまには大変お世話になり、可愛がっていただいた高徳寺でした。本当にありがとうございます。

※注

*聖徳太子碑建立除幕式 大正11年6月15日

(当時下川沿と呼ばれた共立部落の小高い丘の上、常呂川から右岸約1kmのところ、自然石で造られたこの1.2メートルの石碑は、常呂川の悠久の流れと工事の進捗状況を見下ろす位置にあった)

*聖徳太子祭 8月1日

(堤防の築堤・護岸工事起工式の8月1日を聖徳太子祭と定め、この日を1日休み、聖徳太子に感謝を捧げ、工事の安全と早期完成を祈るとともに、工事関係者、地域住民が一緒になって相撲大会などの余興を楽しんだ)

*聖徳太子碑を高徳寺(富丘)に移転 昭和7年

(新しい場所に移転してから聖徳太子祭はさらに賑やかになり、相撲の他、柔剣道、盆踊りなども催され、地域の人たちの楽しみの行事であった。多い時は200人以上の人たちが集まった)

『聖徳太子碑70周年記念誌』から抜粋

*高徳寺の富丘移転 大正12年5月

西川沿西2線サロマ道路沿い(斉藤農場の一角)

*富丘公民館落成 昭和43年7月21日

*富丘神社建立 昭和21年6月13日(西2線暴風林内)

富丘神社現在地移転 昭和45年6月

「おとうさんとくらべて」(抜粋) ちちだまむし

聖徳太子祭の思い出

『富丘小学校開校30周年記念誌』掲載

おとうさんの しょうがつこうじだいで うれしかったことは、とみおかに おてらがあつて、そのおてらで、なつの日、しょうがくせいのも すもうたいかいがありました。5人かつて、ノート5さつと、えんぴつ10本 もらったそうです。(略)